

地球深部探査船「ちきゅう」下北半島東方沖掘削試験について（速報）
～試験状況報告 コア試料採取～

海洋研究開発機構（理事長 加藤康宏）の地球深部探査船「ちきゅう」は、下北半島東方沖（八戸市北東沖約100km）の試験・訓練海域（[図-1](#)）において、掘削試験を継続中です。

8月6日の出港後、各種の機器作動確認試験、掘削準備作業を実施した後、試料(コア)採取システムを用いて、海底下365mまで掘削・試料採取試験を実施し、

ほぼ100%の試料回収に成功しました（[図-2](#)）。当海域海底下には、事前調査においてメタンハイドレートの存在が予測されていましたが、今回採取された試料中には粒子間充填型※1のメタンハイドレートが含まれると思われる物質が確認されました（[図-3](#)）。

今後は以下の予定で、本船初のライザー掘削の実施とともに科学掘削の最深となる掘削深度約2,200mを目指します。

（今後の主な試験予定）

- 8月下旬： BOP（噴出防止装置）設置等
- 9月上旬： ライザーパイプ及びBOPの降下・設置・緊急離脱試験
- 9月中旬： ライザー掘削によるコア採取試験
- 10月上旬頃： 海底下約2,200mへの到達

※1粒子間充填型：メタンハイドレート存在形態の型のひとつ。火山灰層など粗粒地層の粒子間にメタンハイドレートが浸み込んだ状態で存在している。他に海底表面分布型、団塊状・板状型などの分布型がある。

お問い合わせ先

独立行政法人海洋研究開発機構

（「ちきゅう」、掘削試験について）

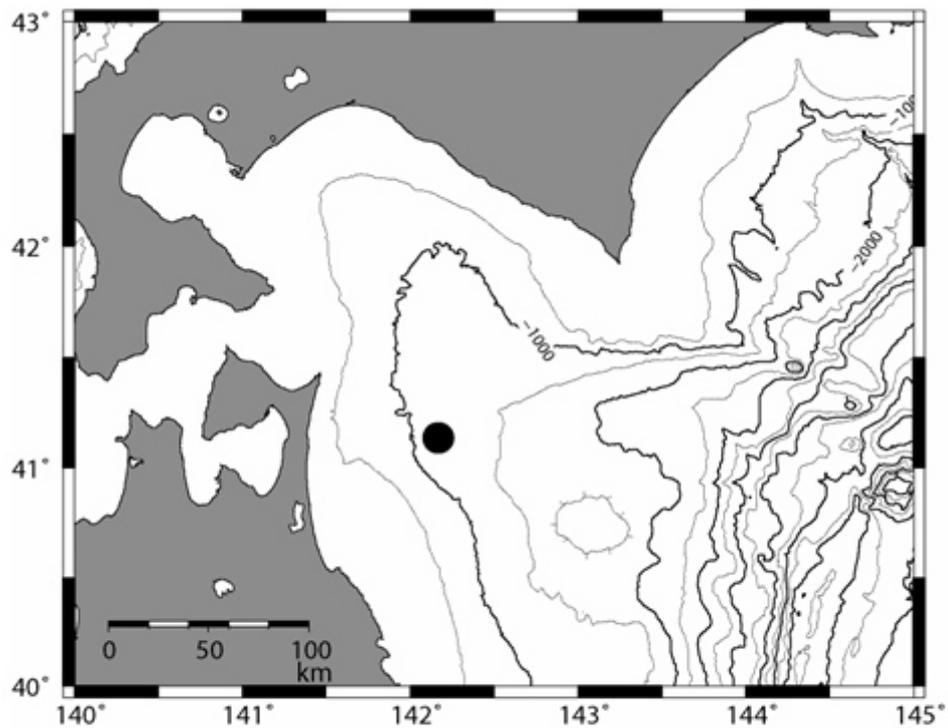
地球深部探査センター

企画調整室長 田中 武男 TEL：045-778-5640

（報道について）

経営企画室

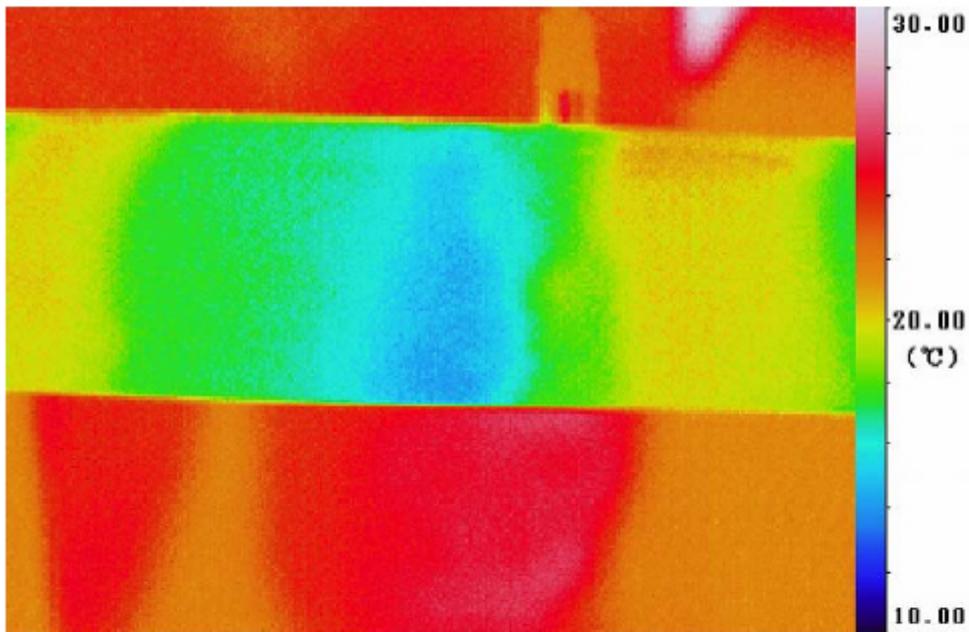
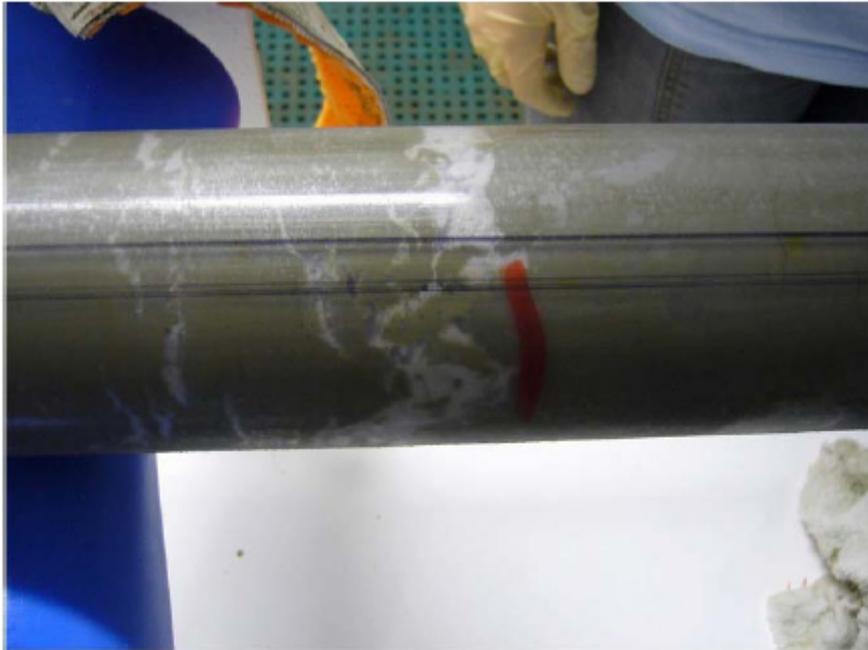
報道室長 大嶋 真司 TEL：046-867-9193



(図一) 下北半島東方沖試験・訓練海域図



(図二) 船上作業風景(船上に上がってきた試料(コア)回収の状況)



(図一3)海底下 189mで採取されたコア

上図:メタンハイドレートが含まれると思われるコア (チューブにマジックで印をつけた部分が当該箇所)

下図:コア試料回収後、チューブに入ったままの状態での温度を測定したサーモグラフィ画像 (周囲の堆積物と比較して明らかに低温であるため、メタンハイドレートが含まれると推定される)